

# 病害虫発生予察情報 第4号

富山県農林水産総合技術センター所長

## 7月の病害虫発生予報

【予報の概要】

作物名	病害虫名	発生量	発生時期	作物名	病害虫名	発生量	発生時期		
水稲	いもち病 (葉いもち)	やや少ない	並	野菜	白ねぎ	ネギアザミウマ	並	—	
	いもち病 (穂いもち)	並	並			ネギハモグリバエ	やや少ない	—	
	紋枯病	やや少ない	やや遅い			シロイチモジヨトウ	多い	—	
	稲こうじ病	並	並			ハスモンヨトウ	多い	早い	
	<b>斑点米カメムシ類</b>					アブラムシ類	やや少ない	—	
		アカヒゲホソミドリカスミカメ	多い	—	果樹	果樹全般	カメムシ類	多い	—
		アカスジカスミカメ	多い	—		りんご	褐斑病	やや多い	—
		トゲシラホシカメムシ	多い	—			輪紋病	並	並
		ニカメイガ (第2世代)	やや少ない	並			ハダニ類	やや多い	—
		ツマグロヨコバイ	多い	—			キンモンホソガ	少ない	—
		ヒメトビウンカ	やや多い	—			黒星病	やや少ない	—
		セジロウンカ	並	—		日本なし	輪紋病	並	並
		イネアオムシ	やや少ない	並			ナシヒメシンクイ	やや多い	—
		イナゴ類	並	—			ハダニ類	やや多い	—
						カイガラムシ類	多い	—	
大豆	葉焼病	やや多い	並	ぶどう	べと病	やや多い	—		
	ウコンノメイガ	並	並	かき (三社)	フジコナカイガラムシ	少ない	—		
	ハスモンヨトウ	多い	早い	もも	灰星病	並	並		
	フタスジヒメハムシ	並	—		せん孔細菌病	やや多い	—		
	アブラムシ類	並	—		白さび病	やや多い	—		
	ハダニ類	並	やや早い	花き	ハダニ類	並	—		
野菜	白ねぎ	さび病	やや少ない		—	花き全般	アブラムシ類	少ない	—
		黒斑病・葉枯病	多い		—		タバコガ類	並	—
		軟腐病	やや多い	—					

**発生量**

多い : 平年比 141%以上  
 やや多い : 平年比 121%以上 140%以内  
 並 : 平年比 80%以上 120%以内  
 やや少ない : 平年比 60%以上 79%以内  
 少ない : 平年比 59%以下

**予報時期**

早い : 平年値より 6 日以上早い  
 やや早い : 平年値より 3 ~ 5 日早い  
 並 : 平年値を中心として前後 2 日以内  
 やや遅い : 平年値より 3 ~ 5 日遅い  
 遅い : 平年値より 6 日以上遅い

予報の根拠中の

(+) : 発生量が多くなる要因、(±) : 平年並み発生要因、(-) : 少なくなる要因  
 (早発) : 発生が早くなる要因、(並) : 平年並になる要因、(遅発) : 遅くなる要因 をそれぞれ示す。

# I 水 稲

## 1 いもち病（葉いもち）

(1) 予報内容 発生量：やや少ない  
発生時期：並



図1 いもち病り病葉

(2) 予報の根拠

- ・ 7月28日にかけての気象は平年と同様に曇りや雨の日が多く、気温は高いと予想されている。(＋)
- ・ 6月20日調査において、被害葉は確認されなかった。(－)
- ・ 苗箱施用剤、種子処理剤の普及率が高い。(－)
- ・ イネの生育は平年並に推移している(±)

(3) 防除対策

- ・ 放置されている補植苗は、速やかに抜き取り処分する。
- ・ BLASTAM情報（農業研究所ホームページ）をもとに、ほ場観察を励行し、早期発見・早期防除に努める。なお、平年の初発確認日は7月10日である。
- ・ 防除指針 30～31 ページ参照



BLASTAM  
(随時更新)

表 6月のBLASTAM判定結果

月日	朝日	魚津	上市	富山	八尾	伏木	氷見	砺波	南砺高宮
6月15日	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6月16日	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6月17日	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6月18日	—	—	—	—	4	—	—	—	—
6月19日	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6月20日	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6月21日	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6月22日	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6月23日	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6月24日	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6月25日	—	—	●	—	—	—	—	—	—
6月26日	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6月27日	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6月28日	—	—	4	—	●	—	—	—	—
6月29日	—	—	●	—	—	—	—	—	—
6月30日	—	—	—	—	●	—	—	—	—

<発生指標>

●：好適条件（湿潤時間中の平均気温が15～25℃であり、湿潤時間が十分で、当日を含めてその日以前5日間の日平均気温が20～25℃の範囲内）

1：準好適条件（湿潤時間は10時間以上だが、前5日間の平均気温が20℃未満）

2：準好適条件（湿潤時間は10時間以上だが、前5日間の平均気温が25℃以上）

3：準好適条件（湿潤時間は10時間以上だが、湿潤時間中の平均気温が15～25℃の範囲外）

4：準好適条件（湿潤時間が湿潤時間中の平均気温ごとに必要な時間数よりも短い）

—：好適条件なし

？：判定不能

- ・ 感染好適条件が現れた日から7日間前後で葉いもちの初発生が予想されます。
- ・ 初発生後、極端な低温か高温がない限り、感染好適条件が現れた日から2週間ほどで病斑が目立つ
- ・ その前後に次の感染好適条件が現れると2次感染が起こり、葉いもちが蔓延し始めます。

※6月1日から15日まで間、好適条件日は観測されなかった

## 2 いもち病（穂いもち）

- (1) 予報内容            発生量：並  
                              発生時期：並
- (2) 予報の根拠
- ・ 7月28日にかけての気象は平年と同様に曇りや雨の日が多く、気温は高いと予想されている。（+）
  - ・ 6月20日調査において、被害葉は確認されなかった。（-）
- (3) 防除対策
- ・ 防除指針 32～33 ページ参照



図2 穂いもちり病穂

## 3 紋枯病

- (1) 予報内容            発生量：やや少ない  
                              発生時期：やや遅い
- (2) 予報の根拠
- ・ 前年の発生量は少なかった。（-）
  - ・ 7月28日にかけて降水量は平年並か多い見込みで、気温は高いと予想されている。（+）
  - ・ 6月26日時点において、発生は確認されていない。（平年の初発確認日は6月25日）（遅発）
  - ・ イネの生育は平年並に推移している（±）
- (3) 防除対策
- ・ 防除指針 29～30 ページ参照



図3 紋枯病り病株

## 4 稲こうじり病

- (1) 予報内容            発生量：並  
                              発生時期：並
- (2) 予報の根拠
- ・ 7月28日にかけての降水量は平年並か多いと予想されている。（+）
  - ・ 7月28日にかけての気温は高いと予想されている。（±）
  - ・ 近年は、発生量が少ない傾向にある。（-）
- (3) 防除対策
- ・ 前年に発生が多かったほ場では発生リスクが高いため防除を徹底する。
  - ・ 防除指針 35ページ参照



図4 稲こうじり病穂

## 5 斑点米カメムシ類（アカヒゲホソミドリカスミカメ）

(1) 予報内容 発生量：多い

(2) 予報の根拠

- ・ 6月20日調査の畦畔・雑草地のすくい取り虫数は3.5頭で、平年並（3.3頭）であった（±）。
- ・ 7月28日にかけての気温は高いと予想されている。（+）

(3) 防除対策

- ・ 斑点米カメムシ類の繁殖を抑えるため、7月上旬の畦畔および雑草地の草刈りを徹底する。
- ・ イネ科雑草の穂が斑点米カメムシ類の好適な餌となるので、草刈りの後も穂が出ないように管理する。やむをえず穂が出ている雑草を刈る場合は、本田薬剤防除の直前に行う。
- ・ 斑点米カメムシ類は水田内のヒエ、ホタルイなどの雑草を好むので、水田内の除草管理を徹底する。
- ・ てんたかく等の早生品種は、穂揃期と傾穂期の2回の基本防除を徹底する。
- ・ 防除の際には、畦畔にも薬剤がかかるようにする。
- ・ 近隣に雑草地や麦あとと不作付地がある水田においては、斑点米カメムシ類の発生が多くなる場合があるので特に防除を徹底する。
- ・ 割刈の発生が多いと予想される場合や散布後も水田内に斑点米カメムシ類が認められる場合は、追加の防除を実施する。
- ・ 防除指針 42、44ページ参照



図5 アカヒゲホソミドリカスミカメ

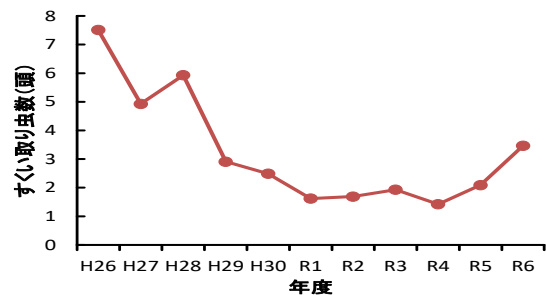


図6 アカヒゲホソミドリカスミカメの畦畔・雑草地すくい取り状況年次推移（6月20日調査）

## 6 斑点米カメムシ類（アカスジカスミカメ）

(1) 予報内容 発生量：多い

(2) 予報の根拠

- ・ 6月20日調査の畦畔・雑草地のすくい取り虫数は16.5頭で、平年（2.3頭）より多かった。（+）
- ・ 7月28日にかけての気温は高いと予想されている。（+）

(3) 防除対策

- ・ アカヒゲホソミドリカスミカメの防除対策に準ずる。
- ・ 防除指針 42、44ページ参照



図7 アカスジカスミカメ

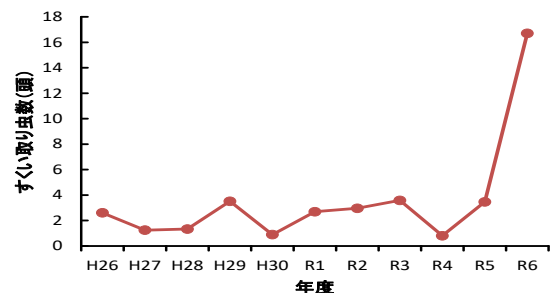


図8 アカスジカスミカメの畦畔・雑草地すくい取り状況年次推移（6月20日調査）

## 7 斑点米カメムシ類（トゲシラホシカメムシ）

(1) 予報内容 発生量：多い

(2) 予報の根拠

- ・ 6月20日調査の畦畔・雑草地のすくい取り虫数は0.5頭で、平年（0.1頭）より多かった。（+）
- ・ 7月28日にかけての気温は高いと予想されている。（+）

(3) 防除対策

- ・ 防除指針 43～44ページ参照



図9 トゲシラホシカメムシ

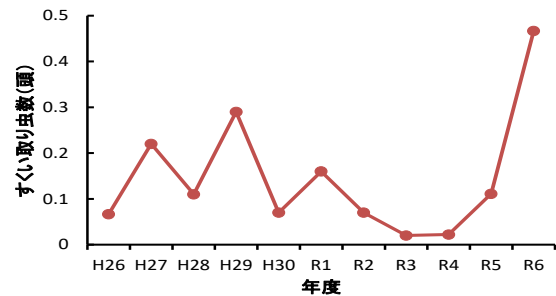


図10 トゲシラホシカメムシの畦畔・雑草地すくい取り状況年次推移（6月20日調査）

## 8 ニカメイガ（第2世代）

(1) 予報内容 発生量：やや少ない

発生時期：並

(2) 予報の根拠

- ・ 6月20日調査の被害株率は0.6%で、平年並（0.6%）であった。（±）
- ・ フェロモントラップによる6月4半旬までの誘殺数は65頭で平年（122頭）より少なかった。（-）

(3) 防除対策

- ・ 防除指針 37～38ページ参照



図11 ニカメイチュウの幼虫（左）と心枯れ被害（右）

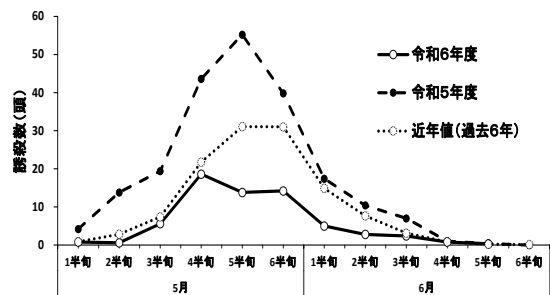


図12 フェロモントラップによるニカメイガの誘殺数の推移

## 9 ツマグロヨコバイ

(1) 予報内容 発生量：多い

(2) 予報の根拠

- ・ 6月20日調査のすくい取り虫数は1.1頭で、平年（0.2頭）より多かった。（+）
- ・ 7月28日にかけての気温は高いと予想されている。（+）

(3) 防除対策

- ・ 防除指針 39ページ参照



図13 ツマグロヨコバイの雌成虫（上）と雄成虫（下）

## 10 ヒメトビウンカ

- (1) 予報内容 発生量：やや多い
- (2) 予報の根拠
- ・ 6月20日調査のすくい取り虫数は0.6頭で、平年並（0.7頭）であった。（±）
  - ・ 7月28日にかけての気温は高いと予想されている。（+）
- (3) 防除対策
- ・ 防除指針 40～41 ページ参照

## 11 セジロウンカ

- (1) 予報内容 発生量：並
- (2) 予報の根拠
- ・ 6月20日調査のすくい取り虫数は0.02頭で、平年（0.12頭）より少なかった。（－）
  - ・ 7月28日にかけての気温は高いと予想されている。（+）
  - ・ 6月20日調査に初発を確認し、平年（6月26日）より早かった。（+）
- (3) 防除対策
- ・ 防除指針 40～41 ページ参照

## 12 イネアオムシ

- (1) 予報内容 発生量：やや少ない  
発生時期：並
- (2) 予報の根拠
- ・ 6月20日調査のすくい取りでは確認されず、平年並（0.1頭）であった。（－）
- (3) 防除対策
- ・ 防除指針 41 ページ参照



図14 イネアオムシの幼虫

## 13 イナゴ類

- (1) 予報内容 発生量：並
- (2) 予報の根拠
- ・ 6月20日調査のすくい取り虫数は1.4頭で、平年並（1.2頭）であった。（±）
  - ・ 7月28日にかけての気温は高いと予想されている。（+）
- (3) 防除対策
- ・ 防除指針 38 ページ参照



## Ⅱ 大豆

### 1 葉焼病

(1) 予報内容 発生量：**やや多い**  
発生時期：並

(2) 予報の根拠

- ・ 7月28日にかけての気温は高いと予想されている。(±)
- ・ 7月28日にかけての降水量は平年並か多いと予想されている。(＋)

(3) 防除対策

- ・ 発生初期に薬剤防除を実施する。
- ・ 防除指針 55 ページ参照



図15 葉焼病の典型的な症状(左)と発病程度別病徴(右)

### 2 ウコンノメイガ

(1) 予報内容 発生量：並  
発生時期：並

(2) 予報の根拠

- ・ 7月28日にかけての気温は高いと予想されている。(±)
- ・ 7月28日にかけての降水量は平年並みか多いと予想されている。(±)

(3) 防除対策

- ・ 播種時期が早く、生育が旺盛なほ場や葉色が濃いほ場で多発するので注意する。
- ・ 7月6半月における1本あたり平均葉巻数が6個以上確認された場合には、薬剤による防除を実施する(1ほ場当たり4か所・連続5～10本調査)。
- ・ 防除指針 55 ページ参照



図16 ウコンノメイガ幼虫による葉巻き

### 3 ハスモンヨトウ

(1) 予報内容 発生量：**多い**  
発生時期：**早い**

(2) 予報の根拠

- ・ フェロモントラップによる6月1半月～5半月の誘殺数は37頭で、平年並(38頭)であったが、6月5半月の誘殺数は27頭で平年(12頭)より多く立ち上がりが早くなっている。(早発、＋)
- ・ 春先からの気温は高く推移していた。(早発)

(3) 防除対策

- ・ 防除指針 57 ページ参照



図17 ハスモンヨトウ幼虫

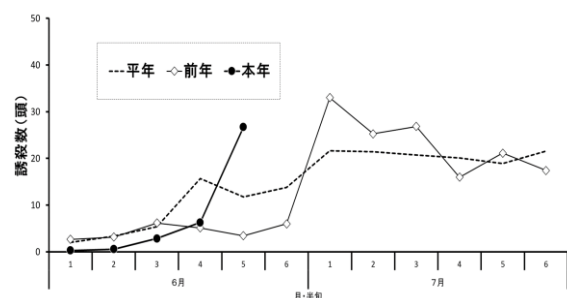


図18 フェロモントラップによるハスモンヨトウの誘殺数の推移

#### 4 フタスジヒメハムシ

- (1) 予報内容 発生量：並
- (2) 予報の根拠
- ・ 6月25日調査の被害株率は0%で、平年(3.1%)より低かった。(－)
  - ・ 種子処理剤の普及が進んでいる。(－)
  - ・ 昨年の払い落とし虫数は多かった。(＋)
- (3) 防除対策
- ・ 防除指針 57 ページ参照



図19 フタスジヒメハムシ成虫

#### 5 アブラムシ類

- (1) 予報内容 発生量：並
- (2) 予報の根拠
- ・ 6月25日調査の寄生株率は0%で、平年(0.0%)並に低かった。
  - ・ 種子処理剤の普及が進んでいる。(－)
- (3) 防除対策
- ・ 防除指針 56 ページ参照

#### 6 ハダニ類

- (1) 予報内容 発生量：並  
発生時期：やや早い
- (2) 予報の根拠
- ・ 6月25日調査の寄生株率は0%で、平年(0.2%)並に低かった。(－)
  - ・ 7月28日にかけての気温は高いと予想されている。(早発)
  - ・ 7月28日にかけての降水量は平年並みか多いと予想されている。(±)
- (3) 防除対策
- ・ 高温・乾燥条件で短時間で増殖し、被害が多発する。ほ場でハダニの被害が確認され、高温・乾燥条件が続くと予想された場合は、薬剤による防除を行う。
  - ・ 防除指針55ページ参照



## Ⅲ 野 菜

### 1 白ねぎのさび病

- (1) 予報内容 発生量：やや少ない
- (2) 予報の根拠
- ・ 6月25日調査の発病株率は6.4%で、平年(18.0%)より低かった。(－)
  - ・ 7月28日にかけての気温は高いと予想されている。(－)
  - ・ 7月28日にかけての降水量は平年並か多いと予想されている。(＋)
- (3) 防除対策
- ・ 防除指針 97 ページ参照



図 20 さび病の葉の病徴(夏孢子)

### 2 白ねぎの黒斑病・葉枯病

- (1) 予報内容 発生量：多い
- (2) 予報の根拠
- ・ 6月25日調査の発病株率は1.6%で、平年(1.3%)よりやや高かった。(＋)
  - ・ 7月28日にかけての気温は高いと予想されている。(＋)
  - ・ 7月28日にかけての降水量は平年並か多いと予想されている。(＋)
- (3) 防除対策
- ・ 気温が高く、降雨が多い場合に多発しやすい。発病初期から定期的に薬剤を散布する。
  - ・ 防除指針 97～98 ページ参照

### 3 白ねぎの軟腐病

- (1) 予報内容 発生量：やや多い
- (2) 予報の根拠
- ・ 7月28日にかけての気温は高いと予想されている。(＋)
  - ・ 7月28日にかけての降水量は平年並か多いと予想されている。(＋)
- (3) 防除対策
- ・ 高温・高湿条件や土寄せ時の傷が発生を助長する。排水対策を徹底するとともに、高温時の土寄せを避ける。土寄せ前や降雨前後に茎葉散布剤を散布する。
  - ・ 防除指針 98 ページ参照

### 4 白ねぎのネギアザミウマ

- (1) 予報内容 発生量：並
- (2) 予報の根拠
- ・ 6月25日調査の被害株率は49.6%で、平年(48.3%)並であった。(±)
  - ・ 7月28日にかけての気温は高いと予想されており、降水量は平年並みか多いと予想されている(±)
- (3) 防除対策
- ・ 土寄せ毎に殺虫剤を施用し、密度が低い状態を維持する。被害が多くみられる場合は、散布剤で随時防除を行う。薬剤抵抗性の発達を防ぐため、作用機作の異なる剤を施用する。
  - ・ 防除指針 99～100 ページ参照

## 5 白ねぎのネギハモグリバエ

(1) 予報内容 発生量：やや少ない

(2) 予報の根拠

- ・ 6月25日調査の被害株率は1.6%で、平年(16.5%)より低かった。(－)
- ・ 7月28日にかけての気温は高いと予想されており、降水量は平年並か多いと予想されている。(±)

(3) 防除対策

- ・ 土寄せ毎に殺虫粒剤を施用し、密度が低い状態を維持する。被害が多くみられる場合は、散布剤で随時防除を行う。薬剤抵抗性の発達を防ぐため、作用機作の異なる剤を施用する。
- ・ 防除指針 99 ページ参照



図 21 ネギハモグリバエの産卵痕(左)と幼虫による被害(右)

## 6 白ねぎのシロイチモジヨトウ

(1) 予報内容 発生量：多い

(2) 予報の根拠

- ・ フェロモントラップによる6月3半旬～5半旬の誘殺数は19.8頭で、平年(12.7頭)より多かった。(＋)

(3) 防除対策

- ・ 老齢幼虫は若齢幼虫に比べて薬剤が効きにくいので、圃場を定期的に確認し早期防除に努める。薬剤抵抗性の発達を防ぐため、作用機作の異なる剤を用いる。
- ・ 防除指針 100 ページ参照



図 22 5 齢幼虫 (左) と成虫

## 7 ハスモンヨトウ

(1) 予報内容 発生量：多い

発生時期：早い

(2) 予報の根拠

- ・ フェロモントラップによる6月1半旬～5半旬の誘殺数は37頭で、平年並(38頭)であったが、6月5半旬の誘殺数は27頭で平年(12頭)より多く立ち上がりが早くなっている。(早発、＋)
- ・ 春先からの気温は高く推移していた。(早発)

(3) 防除対策

- ・ 防除指針 68～134 ページのハスモンヨトウの項を参照

## 8 アブラムシ類

(1) 予報内容 発生量：やや少ない

(2) 予報の根拠

- ・ 6月25日園芸調査での各作物の1葉虫数は、やや少ない～平年並であった。(－)
- ・ 7月28日にかけての降水量は平年並か多いと予想されている。(－)

(3) 防除対策

- ・ 防除指針 68～131ページのアブラムシ類の項を参照

## IV 果樹

### 1 果樹のカメムシ類

- (1) 予報内容 発生量：多い
- (2) 予報の根拠
- ・フェロモントラップによる5月4半旬～6月3半旬のチャバネアオカメムシの誘殺数は147.0頭で、平年(22.4頭)より多かった。(+)
  - ・7月28日にかけての気温は高いと予想されている。(+)
- (3) 防除対策
- ・令和6年5月23日発表の病害虫発生注意報第1号参照。
  - ・防除指針：りんご 135、140～141、143～145 ページ、日本なし 147、152、155～156 ページ、かき 164、167 ページ、もも 169～170、172 ページ参照



図 23 チャバネアオカメムシ成虫(左)と卵(右)

### 2 りんごの褐斑病

- (1) 予報内容 発生量：やや多い
- (2) 予報の根拠
- ・現在までの発生量は平年並であった。(±)
  - ・7月28日にかけての降水量は平年並か多いと予想されている。(+)
- (3) 防除対策
- ・前年に発生が多かった園地や発生が懸念される園地では、薬剤の散布量を十分確保する。
  - ・降雨などにより、薬剤の散布間隔が10日以上開かないよう注意し、雨前防除を徹底する。
  - ・主枝や垂主枝から発生している新梢を適宜整理するとともに、枝つりや支柱入れを行い、薬剤の到達性を高める。
  - ・防除指針：135、137～138、142～143ページ参照



図 24 褐斑病の初期病斑(左)と進行した病斑(右)

### 3 りんごの輪紋病

- (1) 予報内容 発生量：並  
発生時期：並
- (2) 予報の根拠
- ・前年の発生量は少なかった。(－)
  - ・7月28日にかけて降水量は平年並か多いと予想されている。(+)
- (3) 防除対策
- ・梅雨期間中は重要防除時期なので、薬剤の散布間隔が10日以上開かないよう注意し、雨前防除を徹底する。
  - ・防除指針：135、138、142～143ページ参照

## 4 りんごのハダニ類

(1) 予報内容 発生量：やや多い

(2) 予報の根拠

- ・現在までの発生量は平年並であった。(±)
- ・7月28日にかけての気温は高いと予想されている。(＋)
- ・7月28日にかけての降水量は平年並か多いと予想されている。(±)

(3) 防除対策

- ・園地の草刈りを徹底し、下草での増殖の低減に努める。
- ・殺ダニ剤の散布前には草刈りを行い、ハダニ類が樹上へ移動した後に殺ダニ剤を散布する。
- ・殺ダニ剤は散布むらにより効果、残効が低下するので、丁寧に散布する。
- ・ハダニ類は高温・乾燥が続くと急増するので、園地の発生状況に注意し、発生が見られた際は早期防除に努める。
- ・防除指針：135、139、141～142、144～145 ページ参照



図25 ナミハダニの成虫

## 5 りんごのキンモンホソガ

(1) 予報内容 発生量：少ない

(2) 予報の根拠

- ・フェロモントラップによる5月4半旬～6月3半旬の誘殺数は2.0頭で、平年(20.0頭)より少なかった。(－)

(3) 防除対策

- ・7月上旬(第2世代成虫発生盛期)は重要防除時期なので、適期防除に努める。
- ・防除指針：135、139～141、143～144 ページ参照



図26 キンモンホソガによる被害葉

## 6 日本なしの黒星病

(1) 予報内容 発生量：やや少ない

(2) 予報の根拠

- ・現在までの発生量は少なかった。(－)
- ・7月28日にかけての降水量は平年並か多いと予想されている。(＋)

(3) 防除対策

- ・り病した果実や葉は、見つけ次第除去し、園地外に持ち出して処分する。
- ・降雨などにより、薬剤の散布間隔が10日以上開かないよう注意し、雨前防除を徹底する。
- ・防除指針：147～151、154 ページ参照



図27 黒星病り病幼果

## 7 日本なしの輪紋病

- (1) 予報内容 発生量：並  
発生時期：並
- (2) 予報の根拠
- ・前年の発生量は少なかった。(－)
  - ・7月28日にかけての降水量は平年並か多いと予想されている。(＋)
- (3) 防除対策
- ・梅雨期間中は重要防除時期なので、薬剤の散布間隔が10日以上開かないよう注意し、雨前防除を徹底する。
  - ・防除指針：147～151、154ページ参照

## 8 日本なしのナシヒメシンクイ

- (1) 予報内容 発生量：やや多い
- (2) 予報の根拠
- ・フェロモントラップによる5月4半旬～6月3半旬のナシヒメシンクイの誘殺数は11.1頭で、平年(2.7頭)よりやや多かった。(＋)
- (3) 防除対策
- ・7月中旬(第2世代成虫発生盛期)は重要防除時期なので、適期防除に努める。
  - ・防除指針：147、151～152、155～156ページ参照

## 9 日本なしのハダニ類

- (1) 予報内容 発生量：やや多い
- (2) 予報の根拠
- ・現在までの発生量は平年並であった。(±)
  - ・7月28日にかけての気温は高いと予想されている。(＋)
  - ・7月28日にかけての降水量は平年並か多いと予想されている。(±)
- (3) 防除対策
- ・園地の草刈りを徹底し、下草での増殖の低減に努める。
  - ・殺ダニ剤の散布前には草刈りを行い、ハダニ類が樹上へ移動した後に殺ダニ剤を散布する。
  - ・殺ダニ剤は散布むらにより効果、残効が低下するので、丁寧に散布する。
  - ・ハダニ類は高温・乾燥が続くと急増するので、園地の発生状況に注意し、発生が見られた際は早期防除に努める。
  - ・防除指針：147、152～153、155～156ページ参照



図28 ナミハダニの成虫



## 10 日本なしのカイガラムシ類

- (1) 予報内容 発生量：**多い**
- (2) 予報の根拠
  - ・現在までの発生量は多かった。(＋)
  - ・7月28日にかけての気温は高いと予想されている。(＋)
- (3) 防除対策
  - ・発生が多い園地では7月中旬にトランスフォームフロアブル(1000～2000倍)を散布する。
  - ・防除指針：151～152、155～156ページ参照

## 11 ぶどうのべと病

- (1) 予報内容 発生量：**やや多い**
- (2) 予報の根拠
  - ・現在までの発生量は平年並であった。(±)
  - ・7月28日にかけての降水量は平年並か多いと予想されている。(＋)
- (3) 防除対策
  - ・り病した花穂や葉などは見つけ次第除去し、園地外に持ち出して処分する。
  - ・降雨などにより薬剤の散布間隔が10日以上開かないよう注意し、雨前防除を徹底する。
  - ・防除指針：158～162ページ参照

## 12 かき(三社)のフジコナカイガラムシ

- (1) 予報内容 発生量：**少ない**
- (2) 予報の根拠
  - ・フェロモントラップによる5月4半旬～6月3半旬の誘殺数は541.0頭で、平年(929.0頭)よりやや少なかった。(－)
- (3) 防除対策
  - ・7月上旬(第1世代ふ化幼虫発生期)は重要防除時期なので、適期防除に努める。
  - ・防除指針：163～164、166～167ページ参照



図29 フジコナカイガラムシの雌成虫

## 13 ももの灰星病

- (1) 予報内容 発生量：**並**  
発生時期：**並**
- (2) 予報の根拠
  - ・前年の発生量はやや少なかった。(－)
  - ・7月28日にかけての降水量は平年並か多いと予想されている。(＋)
- (3) 防除対策
  - ・り病した果実は、見つけ次第除去し、園地外に持ち出して処分する。
  - ・除袋後にはDMI剤を散布する。ただし、耐性菌出現防止のため、年総使用回数は原則2回以内とする。
  - ・防除指針：169、171～172ページ参照

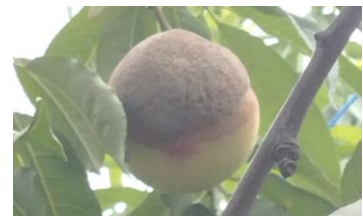


図30 灰星病り病果

## 14 もものせん孔細菌病

- (1) 予報内容 発生量：やや多い
- (2) 予報の根拠
  - ・ 現在までの発生量は平年並であった。(±)
  - ・ 7月28日にかけての降水量は平年並か多いと予想されている。(＋)
- (3) 防除対策
  - ・ 夏型枝病斑は、見つけ次第除去し、園地外に持ち出して処分する。
  - ・ 防除指針：170、172ページ参照

## V 花き

### 1 きくの白さび病

- (1) 予報内容 発生量：やや多い
- (2) 予報の根拠
  - ・ 6月25日調査では発病株率は2.7%で、平年(0.9%)より高かった。(＋)
  - ・ 7月28日にかけての気温は高いと予想されている。(－)
  - ・ 7月28日にかけての降水量は平年並か多いと予想されている。(＋)
- (3) 防除対策
  - ・ 降雨により葉が濡れると感染リスクが高まるため、定期防除を行う際は降雨前にタイミングを逃さず行う。
  - ・ 防除指針 188～189 ページ参照

### 2 きくのハダニ類

- (1) 予報内容 発生量：並
- (2) 予報の根拠
  - ・ 6月25日調査の1葉虫数は0頭で平年(0.1頭)並に少なかった。(±)
  - ・ 7月28日にかけての気温は高いと予想されている。(＋)
  - ・ 7月28日にかけての降水量は平年並か多いと予想されている。(±)
- (3) 防除対策
  - ・ 発生源となるほ場内やほ場周辺の雑草の除去に努める。
  - ・ 高温、乾燥条件では短時間で増殖する。被害がみられる場合は、被害葉を除去した後、薬剤防除を行う。効果が高い発生初期の散布に努める。薬剤抵抗性の発達を防ぐため、作用機作の異なる剤をローテーション散布する。
  - ・ 防除指針 191～192 ページ参照

### 3 アブラムシ類

- (1) 予報内容 発生量：少ない
- (2) 予報の根拠
  - ・ 6月25日調査のキクほ場における1葉虫数は0頭であった。(－)
  - ・ 7月28日にかけての降水量は平年並か多いと予想されている。(－)
- (3) 防除対策
  - ・ 防除指針 188～212ページのアブラムシ類の項を参照

## 4 タバコガ類

(1) 予報内容 発生量：並

(2) 予報の根拠

- ・フェロモントラップによる6月3半旬～5半旬の誘殺数はタバコガが1.0頭で、平年(4.4頭)より少なく、オオタバコガも0頭で、平年(2.2頭)より少なかった。

(一)

- ・7月28日にかけての気温は高いと予想されている。(＋)

(3) 防除対策

- ・防除指針196～212ページのオオタバコガ、タバコガの項を参照

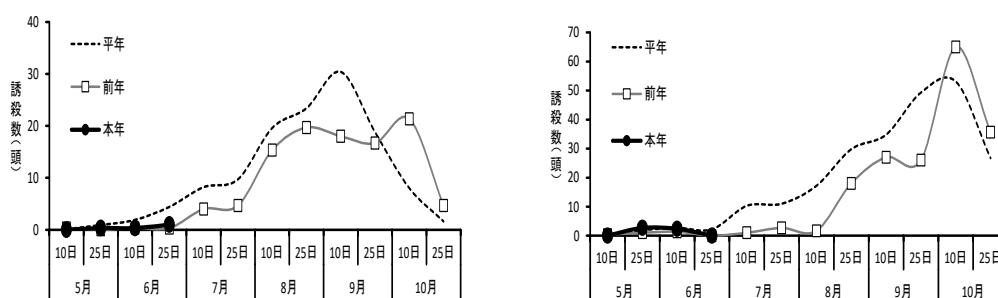


図31 フェロモントラップによるタバコガとオオタバコガの誘殺数の推移  
(左図：タバコガ 右図：オオタバコガ)

### 令和6年度水田畦畔等の草刈り運動について

○斑点米や着色米の発生を防ぐため、カメムシ類や病原菌の発生場所である、畦畔や雑草地の草刈りを県下全域で徹底する

○運動期間 6月28日(金)～7月7日(日)

### 令和6年度農薬危害防止運動の実施について

○全国運動のテーマ：「守ろう 農薬ラベル、確かめよう 周囲の状況」

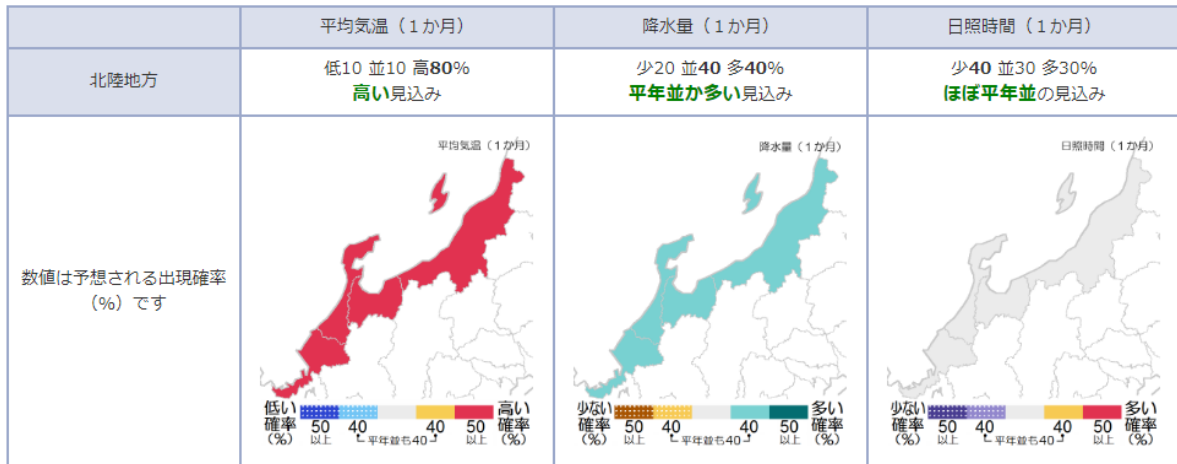
○富山県の運動期間：農薬の繁用期である「4月1日～9月30日」

北陸地方 1か月予報  
(予報期間 6月29日～7月28日)

6月27日  
新潟地方気象台 発表

<予想される向こう1か月の天候>

- ・ 暖かい空気に覆われやすいため、向こう1か月の気温は高いでしょう。
- ・ 前線や湿った空気の影響を受けやすいため、向こう1か月の降水量は平年並か多いでしょう。



富山県農林水産総合技術センター 農業研究所 病理昆虫課

TEL 076-429-2111 FAX 076-429-7974

情報参考 URL <https://taffrc.pref.toyama.jp/nsgc/nougyou/>

